

Two of Us

ふたりの出会い



久田 雅嗣

日本郵便沖縄支社 支社長

ひさだ・まさつぐ／1967年11月25日生まれ。93年郵政省入省。万国郵便連合（UPU）国際事務局（在スイス）国際公務員、総務省郵政企画管理局、日本郵政公社郵便事業総本部、日本郵便本社国際事業部などを経て、2015年8月LENTON GROUP（在香港）出向。18年4月日本郵便本社国際事業部長。21年4月から現職

二人が手にしている国際郵便ハガキが、昨年の初対面から急激に関係を深めるきっかけになった。日本郵便沖縄支社とアジア観光外国語学院は今年4月から「日米交流筆記体で文通プロジェクト」に取り組んでいる。同プロジェクトは、学院に通う小学5、6年の子どもたちと米軍基地内の子どもたちが手紙をやり取りするものだ。在沖米国総領事館からの後援も受けている。お互いが受ける刺激を自身の事業にも生かしながら両者は、未来を担う子どもたちが貴重な体験をする機会を提供している。

一宮 徹

ATMAアジア観光外国語学院 社長

にのみや・とおる／1963年5月20日生まれ。豪州での語学留学から帰国後、旅行会社に就職。ホテルや大手進学塾、教育研修会社などを経て、1999年2月海外用携帯レンタル事業のティスコジャパンを創業。これまで手掛けた事業は10余り。07年から「世界に通用する人財育成」を経営ビジョンとする「ATMAアジア観光外国語学院」を運営

NISHINOHOSHI

西の星

NISHINOHOSHI
is a genuine distilled spirit
produced from carefully selected barley
of which name "Nishinohoshi".

大分県産大麦「ニシノホシ」使用

西の星
20

飲酒は20歳を過ぎてから。お酒はおいしく適量を。妊娠中や授乳期の飲酒には、気をつけましょう。飲酒運転は、絶対にやめましょう。

三和酒類株式会社

大分県宇佐市山本・虚空蔵寺丁
TEL.0978 (32)1431 (代) FAX.0978 (33)3030
<https://www.sanwa-shurui.co.jp>

「気さくで温かい人柄、飾らない人間性が魅力」—— 〈二宮〉

当学院が取り組む「ひとり親 子ども未来プロジェクト」に昨年秋、日本郵便沖繩支社がご協賛いただいたことが、久田支社長とお付き合ひさせていただききっかけになった。私が運命めいたものを感じたのは、同じブランドの名刺入れを持っていたこと。そのことに気づいて一気に親近感が増し「この方とは波長が合う」と勝手に考えた。

しかし、その直感の間違っていなかったと確信している。プロジェクトにご協賛いただいた企業トップを、私がパーソナリティーを務めるラジオ番組のゲストとしてお呼びしているが、海外赴任時に体験された面白い話をたくさん伺うことができた。ものの数分で「日本郵便の支社長=硬い」という私が思い描いていたイメージが払拭された。おそらくラジオを聞かれていた県民の皆さんや支社長のお人柄に触れたことのない局員の皆さんにも、支社長の気さくで温かい人柄、飾らない人間性がお分かりいただけたと思う。

4月から始まる「日米交流筆記体で文通プロジェクト」は、当学院で学ぶ子どもたちと米軍基地内で暮らす子供たちにとって非常に貴重な経験になると考える。プロジェクトには子供たちにとってなじみが薄くなった筆記体を書く機会を沖繩から全国に発信するという狙いがある。プロジェクト推進のため、これからも久田支社長のお力をお借りしたい。

「高い行動力にいつも刺激をいただいている」—— 〈久田〉

日本郵便沖繩支社は2019年度から、自治体や地域の社会福祉協議会などと連携し家庭で余った食料を分け合う「フードドライブ」、企業と連携した食料支援「おきなわこども未来ランチサポート」に取り組んでいる。二宮社長が「ひとり親 子ども未来プロジェクト」に掛ける熱意が胸に刺さり、社内で検討した結果、協賛させていただくことにした。

二宮社長からは、いつも良い刺激を受けている。最初にエンターテイナーだなと感じたのは、私がラジオにゲスト出演したときのことだ。直前まで気さくに会話していたのに、オンエア直後に「豹変^{ひょうへん}、された。「こんばんは。ニノこと二宮徹です」と渋めの声で言われたのだ。この臨機応変さは、二宮社長の行動力の高さにも現れていると思う。二宮社長は、やるべきことを思いつかれた次の瞬間には、どうやったら実現できるかを考えているように感じる。前回お会いしたときの発言が、次にお会いしたときには動き出していることも少なくない。私自身、見習うべき点だといつも思っている。

近年、郵便物数は減少傾向にある。しかし、手紙を書く文化が無くなることはないだろう。大切なのは、書く機会と送り先を創出することだと考えている。手紙を通じて日米の子どもたちが交流する「日米交流筆記体で文通プロジェクト」が沖繩から日本全国へと波及するようにしっかりと取り組みたい。